

## [概要]

本研究では愛知県豊川市の土地利用の異なる三地域で、子どもの遊び空間の変容について聞き取り調査を実施し、結果を比較することで遊び空間の変化の要因を検討した。調査の結果、特に都市部の旧豊川町及び国府町で世代を経るごとに遊び空間が減少していることが示された。その理由として、都市開発による土地利用の変化によって安全性の面から大人が子どもの遊びに干渉する傾向を強めることや、遊び仲間の年齢層が均一化したこと、ドメインの増大によって遊び場が制限されることなどが関わっていると分かった。一方、中山間地域の旧萩村では大規模な開発は行われず、遊び仲間も異年齢集団なので昔からの遊び空間が残る。このような遊び仲間の変化は宅地化の進行に伴う子どもの増加によって、それまで存在していた縄張り意識が消滅していったからだと考えられる。また、三地域を比較すると、生業の違いが遊び空間に影響していることが考えられる。中山間地域では生業の手伝いが子どもの遊びに結びつくことがある。

キーワード：子ども，遊び空間，遊び仲間，土地利用，生業